



平成24年度

秋田県21世紀土地改良区創造運動事例集

水土里ネットの ふれあい

秋田県21世紀土地改良区創造運動推進本部
(水土里ネット秋田)

目次

活動事例

1	鹿角地区(水土里ネット鹿角支部)	...	1
2	大館南地区(水土里ネット二井田真中)	...	2
3	立花地区(水土里ネット大館)	...	3
4	綴子地区(水土里ネット綴子)	...	4
5	能代地区(水土里ネット能代地区)	...	5
6	浜田地区(水土里ネット浜口)	...	6
7	琴丘地区(水土里ネット琴丘)	...	7
8	仁井田地区(水土里ネット仁井田堰)	...	8
9	飯島左貫地区(水土里ネット新城川)	...	9
10	一ノ目潟地区(水土里ネット一ノ目潟)	...	10
11	飯田川地区(水土里ネット飯田川)	...	11
12	天王地区(水土里ネット天王)	...	12
13	八西地区(水土里ネット八郎潟西部干拓)	...	13
14	井川地区(水土里ネット井川)	...	14
15	本荘薬師堂地区(水土里ネット子吉)	...	15
16	飛地区(水土里ネットにかほ)	...	16
17	西目地区(水土里ネット西目)	...	17
18	西木地区(水土里ネット西木)	...	18
19	七滝地区(水土里ネット七滝)	...	19
20	南旭川地区(水土里ネット南旭川)	...	20
21	平鹿地区(水土里ネット雄物川筋)	...	21
22	山田地区(水土里ネット山田五ヶ村)	...	22
23	稲川地区(水土里ネット稲川)	...	23
24	羽後地区(水土里ネットうご)	...	24

参考資料

1. 平成24年度21創造運動表彰 受賞一覧
2. 愛称「水土里ネット」の普及状況

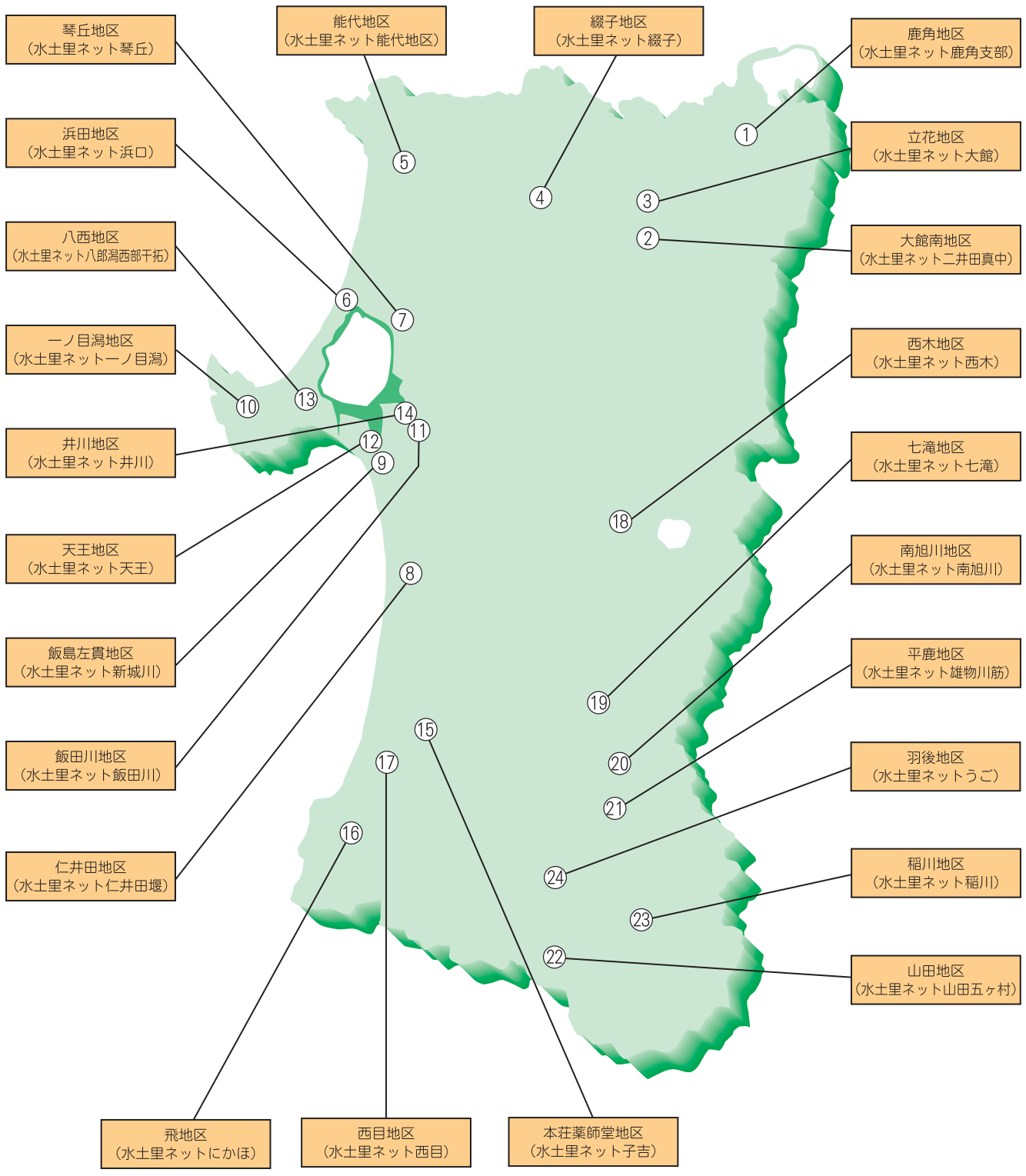
活動実施経過

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	年数
1		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
2				■	■	■	■	■	■	■	■	⑧
3			■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑨
4						■	■	■	■	■	■	⑥
5				■	■	■	■	■	■	■	■	⑧
6	■		■				■				■	④
7				■	■	■	■	■	■	■	■	⑧
8		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
9											■	①
10	■	■		■	■	■	■		■	■	■	⑨
11					■						■	②
12											■	①
13									■	■	■	③
14				■	■	■	■	■	■	■	■	⑧
15		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
16		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩
17									■	■	■	③
18						■	■	■	■	■	■	⑥
19							■	■	■	■	■	⑤
20						■	■	■	■	■	■	⑥
21	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑪
22	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑪
23	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑪
24	■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	⑩

(活動経過実績)

- ... 1年目
- ... 2年目
- ... 3年目
- ... 4年目以降

平成24年度活動地区位置図



農業体験活動、農業水利施設見学

(1) 十和田小学校、八幡平小学校の体験学習で実施している「田植え・稲刈り」に参加。

① 田植え体験学習

学習田へ出発する前に、学校内で自作のパンフレットと地域農業施設マップを使って、施設の位置や施設の重要性、水の大切さを知ってもらうため、説明をしました。その後学習田に行き、田植え作業の説明やコツなどを聞いた後、田植棒で付けた目印に手植えの挑戦をしました。あちらこちらで子供達の歓声が上がリ、楽しそうに体験をしていました。

② 稲刈り体験学習

十和田小学校では、コンバインを使って稲刈りを体験しました。恐る恐るハンドルを握り、真剣な表情で運転している姿が印象的でした。

八幡平小学校の体験学習で田植えたお米が立派に稔り、10月10日に稲刈りが行われました。慣れない手つきで稲刈り鎌を持ち、大変な作業に耐えながらも、最後は「はさ掛」を行い、楽しい秋の1日になりました。

③ 大収穫祭

11月に収穫感謝祭が行われ、田植えや稲刈りを手伝った保護者や地域の人達に招待状が届きました。今年は、収穫したお米で「だまっこ」を作りました。各班毎に、だまっこの形を工夫し味付けにも班のこだわりが見られました。最後に子供達全員から感謝の言葉と歌をプレゼントしてもらい、新米をおいしく味わってきました。

(2) 頭首工施設見学

頭首工施設見学は、市内の小学4年生を対象に花輪大堰頭首工の機能や役割、また水がどの様に利用されているかを自作パンフレットを使って説明をしました。担当者の説明に興味津々で、みんな一生懸命メモをとっていました。

今後も学校の総合学習の時間や行事などを活用してもらい、農業や農村に触れる機会を提供するために地区活動組織、関係機関と連携しながら、施設の見学会や出前授業等を継続していきたいと考えています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット鹿角支部
後援・連携	鹿角市内小学校、かつの土地改良区、鹿角地域振興局
実施期間	5月～10月
参加者	農業体験（田植え・稲刈り）96名、頭首工施設見学（1校）5名
報道関連	秋田県のHP（美の国あきた）
活動実施年数	10年目（H15年～）
連絡先	〒018-5201 鹿角市花輪字荒田4-1 かつの土地改良区 TEL. 0186-23-3762
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット鹿角支部（根本由紀子）

○活動の目標及び達成率	目標	小学校の総合学習等に積極的に参加し、農業体験等を通して農業農村の重要性や水土里ネットの役割をPRする。			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に比べ計画的に活動することができず、施設見学の対象小学校が減り、参加者数も大幅に少なくなってしまう残念。 すべての運動で関係機関と連携し、協力を得ながら活動することができた。今後も更なる体制強化を図り活動を推進していきたい。 				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	改良区広報に、事業内容を掲載しPRしている（年2回）
①役職員・組合員の参加	B	役職員一体で取り組んでいる	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	地域毎にパンフレットや施設マップを作成し小学生へ説明している	①他組織との連携構築	B	関係機関である鹿角地域振興局と連携し協力を得ながら活動している
2. 活動の意味性について			②地域住民等の理解	C	小学生を対象とした活動をしています。最近「学校のパソコンの授業で水土里ネット（土地改良区）をもっと詳しく調べたよ！」と嬉しい声を聞かせてきました。子供達をも通じて、家族や地域住民にも農業に対する関心が今以上に高められるよう活動を継続していきたい
①基本理念の設定	B	地域環境に合う内容で活動している	③施設管理・地域資源の保全強化	C	
②地域の歴史等の伝承	B	施設等が造られた経緯や必要性をパンフレットにまとめPRをしている	④運動の地域づくりへの関わり	C	
③運動の先駆性	C	型にはまった活動となってきたので、今後検討が必要	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	C	
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	
①運動の継続性	A	学校側の協力を得ながら継続していきたい	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	当初、支部主催であった「大根堀」が、現在は支部活動がきっかけとなり保育園独自の農業体験・食育の場となり、活動が発展した			
③運動の計画性	B	鹿角管内全ての小学校を対象として活動出来るよう更なる取り組みが必要			

(自己判定) A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

② 大館南地区 【水土里ネット二井田真中】

地元中学校の農園活動を支援 “キーワードは「地域・環境・守る」”

恒例行事として定着した学校農園活動も、今年で8年目を迎えました。生徒たちにはマルチ掛け作業と、苗植え体験などの指導を行いながら、水の管理や雑草対策、収穫作業などの農作業体験をしてもらい、管理の重要性や環境保全に繋がることへの大切さと、自分たちの住んでいる地域や土地改良区の役割などに関心を持ってもらいました。

今年度は地元よりコーディネーターの方々が参加、協力を得ながら「えだ豆」、「やまのいも」、「さつまいも」の3種類を植え、1時間ほどで作業は終了しました。

夏には「えだ豆」の収穫体験、秋には収穫した「さつまいも」や「やまのいも」を取り入れたレシピで保護者を招いて味わう「なべっこ遠足」で締め括り、24年度の農園活動も無事に終了しました。

学校農園活動を行う中学校は少なくなっているようですが、今後とも活動の支援を続けながら水土里ネットの役割や環境保全への一層の理解、認識を深めてもらえるよう運動を継続していきたいと思っています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット二井田真中（大館市二井田真中土地改良区）
後援・連携	大館市立南中学校
実施期間	6月～10月
参加者	大館市立南中学校 生徒73名
報道関連	北鹿新聞
活動実施年数	8年（H17年～）
連絡先	〒018-5751 大館市二井田字高村56 大館市二井田真中土地改良区 TEL. 0186-49-5010
その他	奨励賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット二井田真中（菅原恵里子）					
○活動の目標及び達成率	目標	農園活動を通じた地域の環境と水土里ネットの役割への理解			
	達成率	75%			
○活動に対する評価	・「地域・環境」という共通の目的をもって、中学校との連携体制が定着している。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	新聞等に掲載
①役職員・組合員の参加	B	活動に対する理解の定着	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	地域の環境と役割について理解を深めてもらうため活動を継続的に行っている	①他組織との連携構築	C	学校との連携
2. 活動の意味性について			②地域住民等の理解	B	生徒を通して理解を深めている
①基本理念の設定	A	作る事により地域や環境が守られていることへの理解	③施設管理・地域資源の保全強化	C	生徒の理解を深め将来の保全につなげたい
②地域の歴史等の伝承	C	—	④運動の地域づくりへの関わり	A	継続していくことで関わりを深めている
③運動の先駆性	C	—	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	活動組織の役員として参加、活動に必要な資料や地図を作成して提供
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	活動を通じて地域農業について理解と関心を深めてもらい将来の担い手につなげたいと思う
①運動の継続性	A	今後も継続していきたいと考えている	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	D				
③運動の計画性	A	年度当初に学校側と計画を立案			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

③ 立花地区 【水土里ネット大館】

小学生のネギ植え・収穫体験～地域の自然や人々とのかかわり

今年で9年目を迎えた農業体験学習は、大館市立川口小学校3年生26名が参加し、農事組合法人立花ファーム、立花地区農用地保全活動協議会の協力のもと、立花ファームの農地を利用し、ネギの苗植作業と収穫作業を体験した。

6月は苗植体験が行われ、始めに小さいネギ苗の手植え作業を体験した後、機械による植付作業の体験も行った。また、10月26日には収穫体験が実施され、自分達で苗を植えたネギの収穫を体験した。6月の小さなネギの苗植え体験から秋の収穫まで、ネギの成長ぶりに子供達も驚いた様子を見せながら、一人10本のネギを指定の袋に詰めて収穫の喜びを楽しんでいた。

作業終了後の立花ファームのハウスで開かれた質問コーナーでは、回答者を悩ませるような質問が出され、子供達の熱心な様子が印象的だった。ネギを食べて風邪をひかない元気な体になってほしいと思う。



活動体制	
実施主体	農事組合法人立花ファーム
後援・連携	大館市土地改良区
実施期間	①6月8日(金) ②10月26日(金)
参加者	川口小学校3年生26名、教員2名
報道関連	なし
活動実施年数	9年(H16年～)
連絡先	〒017-0056 大館市字沼館道南40-12 大館市土地改良区 TEL.0186-42-0558
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット大館 (石田 誠孝)

○活動の目標及び達成率	目標	地域で活躍している方々から様々な事を学ぶ農業体験学習			
	達成率	100%			
○活動に対する評価	・学校との連携が深まってきているので今後も継続していきたい。				
判定基準	自己判定(達成度)		判定基準	自己判定(達成度)	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	C	PRの方法を検討していきたい。
①役職員・組合員の参加	B	水土里ネットの役職員、組合員が参加している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	C	水土里ネットとしては行っていない	①他組織との連携構築	A	川口小学校との連携が構築されている
2. 活動の意匠性について			②地域住民等の理解	B	回数を重ねることに理解は得られていると思う
①基本理念の設定	B	地域と共に歩む方向性を提示	③施設管理・地域資源の保全強化	B	繋がっている
②地域の歴史等の伝承	C	今後は、地域の歴史も伝えていきたい	④運動の地域づくりへの関わり	B	運動の継続で関わりが拡大している
③運動の先駆性	A	ネギ(畑作)の体験学習は他とは違う運動となっている	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	地域資源の保全強化に貢献している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	地域農業のPR等貢献している
①運動の継続性	A	学校側の協力を得ながら継続している	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	運動内容の発展性は薄いが、体験した子どもたちは拡大している	・地域法人の協力があるので、無理のない運動を継続していきたい。		
③運動の計画性	B	小学校と連携し、計画のもと行っている			

(自己判定) A: 大いに達成している B: 達成している C: 少しは達成している D: 達成していない E: その他

④ 綴子地区 【水土里ネット綴子】

地域一体で取り組む農地・水事業

平成24年度より新たに保全組織としてスタートを切りました。過去5ヶ年に続き、故郷綴子の農業や、農業を取り巻く自然環境を守り、子ども達や孫達に素晴らしい自然に囲まれた綴子を残していけるよう活動を行っています。

資源の適切な保全管理として、施設の点検診断に始まり、泥上げ、草刈り、農道補修、施設補修と各集落の計画通り活動を終えることが出来ました。

農村環境保全活動では、春は小学校と連携し昔ながらの手植え農業体験を行い、夏には地域の11集落が一体となり稲穂ロード（農免道路）3.3kmにサルビアを植栽。また、夏休み中に子供会と親の会を対象とした水質生き物調査を、秋には春に小学生が植えた稲の刈り取り作業として、手刈り体験とはさ掛け体験を行いました。そして活動の最後を飾るのは、地域住民交流会です。1年間の活動を振り返るとともに、米づくり体験をした児童による農業体験発表、そして育てたお米をきりたんぼにしての試食、餅つきなどを取り入れ、11集落老若男女問わず地域住民交流の場として開催しました。

また、向上活動では昨年度に続き専門班で施工を行い、降雪前には作業を終えることが出来ました。今後も降雪前には完工できるよう計画し実施していきたいと思えます。

最後に、今後も共同活動・向上活動とも、活動の反省点や問題点を話し合っ、よりよい活動が進められるよう計画を練り、地域一丸となって活動していきたいです。

そして、より地域住民の理解と協力を得て、今後たくさんの人が参加してもらえるような活動が行えるよう、組織と改良区で盛り上げていきたいです。



活動体制	
実施主体	北秋田市綴子地区農地・水・環境保全組織
後援・連携	北秋田地域振興局、北秋田市、地域団体、北秋田市立綴子小学校、水土里ネット綴子
実施期間	6月1日、8月5日、10月3日
参加者	1,476名（地元住民、後援連携関係者等）
報道関連	大館新報、秋北新聞、北鹿新聞
活動実施年数	6年目（H19年～）
連絡先	〒018-3301 北秋田市綴子字掛泥道下210 北秋田市綴子土地改良区 TEL. 0186-62-1677
その他	さなえ賞（H20）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット綴子（藤澤 百恵）					
○活動の目標及び達成率	目標	新体制の浸透・地域一体で取り組む農地・水事業			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・広報による周知や呼びかけにより目標達成に努めた。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	広報発行・のぼり旗設置が定着している
①役職員・組合員の参加	A	地域住民と共同で作業を実施している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	学校や関係団体との連携体制が整っている	①他組織との連携構築	A	学校や地域団体と連携している
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	継続した活動により深まっている
①基本理念の設定	B	取り組みが定着している	③施設管理・地域資源の保全強化	A	継続した活動が強化につながっている
②地域の歴史等の伝承	A	子ども達に伝統農法の実践体験をしている	④運動の地域づくりへの関わり	B	徐々に大きくなっている
③運動の先駆性	B	積極的に検討している	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	組織と連携を取っている
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	継続した活動により少しは貢献している
①運動の継続性	A	継続中である	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	広報発行による周知が定着している	・少子化の影響で子ども達の参加人数が減少しているため、より多くの子ども達に参加してもらえる啓発普及活動を行っていききたい。また、関係団体との更なる連携を踏りたい。		
③運動の計画性	A	学校や関係団体と連携している			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑤ 能代地区 【水土里ネット能代地区】 H24年度「県知事賞」

水土里の実践活動

国営造成施設管理体制整備促進事業の一環として、「水土里の実践活動」を平成24年7月21日、平成24年11月11日に開催した。

平成24年7月21日の活動は、秋田県立大学の学生が参加し、大野分木工等の基幹的水利施設の施設見学を実施した。

平成24年11月11日の実践活動は、槐四日市自治会、能代市シルバー人材センター会員が参加し、轟幹線排水路の草刈り清掃を実施した。

両日とも参加者との意見交換会を行い、地域資源である農業水利施設の持つ多面的機能の重要性を改めて認識しながら、農業者だけではなく、非農家を含めた地域全体で農業水利施設を守っていかなければならないことについて確認を行なった。

今後とも、地元自治会や秋田県立大学等の非農家を含めた活動を継続していけるよう努めたい。



活動体制	
実施主体	能代地区管理体制整備推進協議会（事務局：秋田県能代地区土地改良区）
後援・連携	
実施期間	平成24年7月21日、平成24年11月11日
参加者	7月21日 秋田県立大学 学生36名、教員1名 能代地区管理体制整備推進協議会1名 秋田県能代地区土地改良区 職員7名 計 45名
	11月11日 能代市シルバー人材センター会員20名 槐四日市自治会 9名 能代地区管理体制整備推進協議会1名 秋田県能代地区土地改良区 職員9名 計 39名
報道関連	
活動実施年数	8年目（H17年～）
連絡先	〒016-0014 能代市落合字中大野台100番地23 秋田県能代地区土地改良区 TEL. 185-54-3024
その他	県奨励賞（H20）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット能代地区（三浦 誠樹）

○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設の多面的機能発揮のため、地域住民との施設管理協定締結等の新たな管理体制の枠組みを構築する。			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	・協定締結や推進活動を継続してきたことにより、事業の趣旨や重要性が理解され、これまでの活動が定着段階にある。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	啓発パンフレットを作成しPR活動を実施している
①役職員・組合員の参加	A	役職員と地域住民が共同で活動を実施している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	-	実施していない	①他組織との連携構築	B	地元自治会及び地域住民団体と活動を実施している
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	活動やPRを継続してきたことにより理解が深まってきている
①基本理念の設定	A	推進協議会で計画策定を実施し活動を行っている	③施設管理・地域資源の保全強化	B	各施設の保全管理の強化につなげている
②地域の歴史等の伝承	-	実施していない	④運動の地域づくりへの関わり	-	実施していない
③運動の先駆性	-	実施していない	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	-	農地・水・環境保全向上対策とは、施設を区分している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	-	地域農業の振興には関係していない
①運動の継続性	B	活動を定着させるため、毎年実施している	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	-	実施していない	・地域住民や地元自治会等との活動を継続し、実践活動の定着を図る。		
③運動の計画性	A	推進協議会で計画を策定し活動を実施している			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

⑥ 浜田地区 【水土里ネット浜口】

平成24年度水生生物調査

1 調査目的

当町の基幹産業である農業に関心を高め、併せて農業を支える環境の働きの重要性、中でも水資源が農業を支える必要要素に水生生物があること、水資源の働きやそこに棲む生物の種類によって、環境を知る手がかりになる事を気付かせ、環境と農業、環境と人々の生活、環境と生き物などを広く関連づけて考えることを学習する。

2 調査方法

- ①調査ポイント 3か所 蓮沼から出水口の水路(20mの範囲) ②魚取り網ですくう。
- ③観察用バットに移し、種類、数等を記録。(参考資料：国土交通省東北整備局発行の調査用下敷き)
- ④記録は、採集環境が分かるよう、言葉、図等で記録する。 ⑤各班単位でポイントごと記録する。
- ⑥すくい取った生き物は、終了後に水路に放す。

3 用具

魚取り網 バット 記録用紙 筆記用具 ピンセット 温度計

4 留意事項

- ・水路だけでなく、周囲の環境全体をとらえさせる。 ・蓮沼の環境が大きく影響していることに気づかせる。
- ・水路と沼の条件の違いに注意し、観察をする。 ・危険防止に配慮する。

5 調査結果(児童の記録より)

(1) 生き物

①甲殻類～エビ、イサジャアミ ②巻貝～マルタニシ ③魚類～メダカ、フナ、タナゴ(タイリクバラタナゴ：外来種)、ドジョウ ④両生類～オタマジャクシ、カエル ⑤昆虫～コオニヤンマ(幼虫：ヤゴ)、アメンボ、タガメ、ゲンゴロウ、ガガンボ(幼虫)類かなガレトビケラ類かヘビトンボ類か

(2) 水の状態

・少し臭いがした。水の流れがほとんどなかった。 ・かわ(水路)の状態は泥。 ・少し臭い。

6 調査全体のまとめ

- ・生き物の命の源は「みず」であることに気づかせ、水の大切さ、水を確保するための人々(農家)の工夫がされている。
- ・イサジャアミはそこに棲む生き物を支える重要な食料の源であり、イサジャアミが豊富であることは、そこに棲む生き物も豊かであることを知る。
- ・イサジャアミは、地域の特産品、食料であることを知り、環境維持への心掛けや自分たちの役割を自覚し行動化に繋げる。



活動体制	
実施主体	三種町浜口地域農地・水・環境保全組織
後援・連携	三種町浜口土地改良区
実施期間	平成24年7月27日
参加者	浜口小学校5～6年生 13名
報道関連	
活動実施年数	4年目
連絡先	〒018-2407 山本郡三種町浜田字福沢13-1 三種町浜口土地改良区 TEL. 0185-85-2216
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット浜口(皇山 篤美)					
○活動の目標及び達成率	目標	農業に対する関心を高め、環境の重要性を知ってもらう			
	達成率	100%			
○活動に対する評価	継続予定の初年度の事業だったが、子供たちの参加率もよく概ね予定通り実施できた。				
判定基準	自己判定(達成度)		判定基準	自己判定(達成度)	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	広報でPRを行った
①役職員・組合員の参加	C	役員はやや向上しているが、組合員にはあまり浸透していない	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	小学生を対象に取り組んだ	①他組織との連携構築	B	小学校とも連携を図っている
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	さらに地域住民に理解してもらえようように努力していきたい
①基本理念の設定	A	環境と農業、人々の生活、生き物について興味を持ってもらった	③施設管理・地域資源の保全強化	A	土地改良施設への理解が得られた
②地域の歴史等の伝承	B	昔の話を聞かせ、現在に至っている経緯を理解できたと思う	④運動の地域づくりへの関わり	A	地域の関わりが深められており、さらに継続したい
③運動の先駆性	A	退職した学校の先生等を講師に進めた	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	農・地・水の各組織と連携している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	運動を通じて、将来地域の担い手農家として頑張ってくれる事を期待している
①運動の継続性	A	データ集計のため、次年度以降継続することに意味がある	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	子供たちを通じてさらに参加者を増やせそう	・調査時期、調査ポイントの設定に検討を加え、児童生徒の興味・関心を高めるための工夫と継続された調査になるよう配慮し、学校、地域の連携を強化し今後検討したい。		
③運動の計画性	B	概ね計画どおり実施することができた			

(自己判定) A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

田んぼの水の話

地元の琴丘小学校の児童を対象とした農業施設見学会は今年で連続7回目となりました。

今回、5年生38名と引率教師2名が本土地改良区管理の基幹農業施設を見学しました。5年生では、ちょうど6月の時期に農業用水について学習するとあって学校側でも実際の現場を体験することは大変有意義であるとのことでした。

最初に基幹水源である羽根川ダム湖水館において写真パネルやパンフレットを使い、農業用水の流れと各水利施設の役割を説明し、土地改良区がどのように関わっているかを説明し、その後の質疑応答では児童から活発な質問があり、それに回答し進めていきました。

施設見学では水の流れに沿って上流のダム、ため池、揚水機場、下流の排水機場の順に廻り、各施設の運転操作等を実際に体験してもらいました。参加した児童のほとんどは水利施設を間近に見るのは初めてのようで、興味を持って見学していました。

今後もこの活動を継続し、農業水利施設及び土地改良区の役割を児童及び地域住民に理解してもらえるように努める考えです。



活動体制

実施主体	水土里ネット琴丘（琴丘土地改良区）
後援・連携	三種町琴丘小学校、三種町教育委員会
実施期間	平成24年6月21日
参加者	小学校5年生38名、教師2名、土地改良区（理事長、職員2名、機場管理人1名）
報道関連	特になし
活動実施年数	8年目（H17年～）
連絡先	〒018-2104 山本郡三種町鹿渡字中沢新田34-1 琴丘土地改良区 TEL. 0185-87-2277
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット琴丘（牧野 一）

○活動の目標及び達成率	目標	土地改良区及び農業水利施設に対する社会認識の向上			
	達成率	85%			
○活動に対する評価					
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	写真パネルや関連図書、パンフレット等を活用した
①役職員・組合員の参加	B	役職員が運動推進に協力している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	土地改良区の役職員が今後も活動を継続していく	①他組織との連携構築	A	町教育委員会、小学校との連携が構築されている
2. 活動の意匠性について			②地域住民等の理解	A	活動を継続することで地域住民の理解は深まっている
①基本理念の設定	A	土地改良区と農業水利施設の役割を強調している	③施設管理・地域資源の保全強化	B	児童の段階である程度周知し、将来に繋げたい
②地域の歴史等の伝承	A	先人の歴史や苦勞をできるだけ伝えるようにしている	④運動の地域づくりへの関わり	B	徐々に理解を頂いている
③運動の先駆性	B	特段手本とはならないと思うことができる範囲で活動する	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	施設周辺の草刈りを行い、環境保全に貢献している。
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	農業水利施設を理解することは農業振興に繋がる
①運動の継続性	A	6年間継続中である	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	児童に伝えることにより地域に広げたい	・継続することが大事であり、無理のない形で実施していきたい。		
③運動の計画性	A	事前の打ち合わせや準備を綿密に行っている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

水土里のみちウォーキング in 仁井田 walk

「ウォーキングを通じて仁井田、四ツ小屋地区の美しい田園風景や心和む水辺空間など有形、無形の資源や農業用水路の役割の大切さや農業水利施設の維持管理の大切さを再発見するとともに、認識を深めてもらう。」をテーマに平成15年度から開催された大会も秋田県、県ウォーキング協会、県地域振興局、市農林部、教育委員会、水土里ネット秋田、県秋田花まるっグリーン・ツーリズムなど本当に多くの機関の方々のご協力により第10回を迎えることができました。

今年の大会はあいにくの雨模様の中、211名が14kmと6kmの2コースに分かれ定刻にスタートしましたが、途中、雨脚が強まり14kmコースは10kmに短縮して行われました。また、第10回の記念大会ということで参加者には記念カレンダーの作成やラジオの生放送が体験できる賞品の他、後援団体の花まるっグリーン・ツーリズムに加盟の農家民宿宿泊券が特別賞として当たる抽選会が特別企画として行われました。

雨の中での記念大会となってしまいましたが、多くのスタッフの協力により今年も参加者のみなさんに楽しんでもらうことができましたと思います。

今後はこれまでの経験を活かし、新たな21世紀創造運動を検討していきたいと思います。

10年間、ご協力いただいた全ての方々に、感謝申し上げます。



活動体制	
実施主体	水土里ネット仁井田堰（仁井田堰土地改良区）
後援・連携	県ウォーキング協会、秋田県、秋田市、市教育委員会 J A新あきた、秋田中央農業共済組合、水土里ネット秋田支部、水土里ネット秋田、エフエム椿台 秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会、秋田県サイクリング協会、秋田市勤労者福祉振興会
実施期間	平成24年6月17日
参加者	一般参加者211、スタッフ75人 計286人
報道関連	秋田魁新報、秋田の土地改良、共済組合新聞ほか
活動実施年数	10年目（H15年～）
連絡先	〒010-1421 秋田市仁井田本町4丁目5-20 仁井田堰土地改良区 TEL. 018-839-2504
その他	秋田県奨励賞（H16）、東北地方大賞奨励賞（H16）、秋田県知事賞（H19） 秋田県地域振興局元気なふるさとづくり賞（H19）、東北地方大賞奨励賞（H20） 東北地方大賞奨励賞（H24）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット仁井田堰（伊藤 清栄）

○活動の目標及び達成率	目標 参加者とスタッフへの感謝を込めて 達成率 85%
○活動に対する評価	・記念大会ということで参加者へのサプライズ企画などで大会を盛り上げることができた。 スタッフにも楽しみながら参加してもらった。

判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	A	インターネット、新聞広告、ラジオなど様々な媒体で広報活動を行っている
①役職員・組合員の参加	A	例年、役職員全員で取り組んでいる	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	今回も多くの支部職員に参加してもらったことができた	①他組織との連携構築	A	実行委員会を設置し、運動理念の確認と横の連携を密にしている
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	地域の子どもの間でも、認知度が上がっている
①基本理念の設定	A	第1回目から変わらぬテーマで取り組んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	A	
②地域の歴史等の伝承	A	コース内の神社や歴史的施設を取り込んでいる	④運動の地域づくりへの関わり	B	農地・水と連携された保全活動が地域にも浸透してきている
③運動の先駆性	B	参加者の安全安心とリピーターが増えるよう取り組んでいる	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	地元野菜の販売をすることで生産者からも喜ばれている
①運動の継続性	A	無理のない範囲で活動している	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	より多くの農業団体から支援してもらうよう働きかけている	・少ない人数と、費用で行える新たな運動を模索する必要がある。		
③運動の計画性	A	実行委員会を設置し、運動理念の確認と横の連携を密にしている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

出前授業（稲刈り体験）

今年5月に園児達が泥だらけになりながら一生懸命田植えした稲の刈り取りが9月27日(木)午前10時、晴天の下、園児、先生、関係者、72名の参加により行われた。

初めに当改良区の安田友一理事長が、春に植えた苗がこのようになるには、水、土、太陽が無ければ育たない、おいしいお米になるには綺麗な水が大切と話し、水路などにゴミのポイ捨てなどしないように園児達に呼びかけた。

次に田んぼを提供していただいた須磨良郎さん（当改良区理事）から、稲の刈り方を教えてもらい年少、年中はハサミで、年長はカマで稲刈りを行った。

稲刈りのご褒美として、土地改良区のクリアファイルとジュースを園児全員にプレゼントした。

刈り取られた稲は、須磨さんが乾燥・もみすり・精米をし、その後、幼稚園の秋の行事・収穫祭で、園児達が味噌タンポ、キリタンポを作りみんなでいただいた。

今回は、秋田市農業委員会、秋田市農林部農政課の協力をいただき、活動することができた。

来年も継続して行えるよう、各関係機関と連携を取りながら準備していきたい。



活動体制	
実施主体	水土里ネット新城川（新城川土地改良区）
後援・連携	秋田市農業委員会、秋田市農林部農政課
実施期間	平成24年9月27日(木)
参加者	けやき幼稚園 園児49名、先生13名、行政関係者4名、土地改良区6名、計72名
報道関連	秋田市広報
活動実施年数	1年目（H24年～）
連絡先	〒010-0146 秋田市下新城中野字琵琶沼188-15 新城川土地改良区 TEL. 018-873-2151
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット新城川（安養寺文隆）					
○活動の目標及び達成率	目標	田植え、稲刈りを通して水の大切さをアピールする。			
	達成率	70%			
○活動に対する評価	・各関係機関と連携して活動することができた。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	ホームページのみのPRだったので、次回は広報なども活用したいと思う
①役職員・組合員の参加	B	理事長、地元理事が積極的に協力している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	幼稚園児からの農業体験は、将来きっと実を結ぶと思う	①他組織との連携構築	A	秋田市農業委員会、秋田市農林部農政課と連携し行った
2. 活動の意欲性について			②地域住民等の理解	B	園児を通し、父兄の方にも理解されたと思う
①基本理念の設定	B	農業体験を通して水の大切さを知ってもらった	③施設管理・地域資源の保全強化	B	少しずつ浸透していると思う
②地域の歴史等の伝承	C	今回歴史などの話はしなかった	④運動の地域づくりへの関わり	B	少しずつ関わりが進んでいると思う
③運動の先駆性	C	今回はありきたりだと思おうので、次回は工夫し対応したい	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	協力できる範囲内で行っている
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	少なからず貢献していると思う
①運動の継続性	B	継続的に行いたいと思う	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	人的広がりのため次回は園児だけでなく、父兄の方も参加してもらおう	・ここだけでなく、他の地域でも活動できるよう積極的に展開していきたい。		
③運動の計画性	B	今回は急で準備も思う様にいかなかったため、次回はしっかりしたい			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

クリーンアップ及びブラックバス駆除

当土地改良区では、21創造運動として、平成14年より第1回目のブラックバス駆除を開始し、10年間で8回行っている。また、現在一ノ目潟は農業用の他に飲料水としても利用されていることから、水質保全のため一ノ目潟周辺のクリーンアップも同時に実施している。

今回のブラックバスの捕獲量はわずか6尾であった。13cmから15cmの一、二歳魚が6尾。すべてオオクチバスであった。平成22年度の捕獲量も10尾であったことから、さし網を仕掛ける場所をあらかじめ検討して行ったが、二つ仕掛けた網のうち一つの網の浮きが外れてしまい捕獲することができなかった。

駆除を開始した当初より湖岸から見られる魚影も少なくなっている。今年度は、ここ10年ほどほとんどみられなかったエビ類の目撃例が多く寄せられた。エビ類はバスが好んで捕食するので一ノ目潟では絶えてしまったのではと危惧されていたので、喜ばしい報告である。

クリーンアップ活動で回収したごみは流木がほとんどで、以前あった空き缶やタバコの吸殻などはとても少なかった。

ごみの量は年々減少傾向にあり、今年度は10ℓのごみ袋5つ分だった。遊漁者も年々減少しているのではないかと推測される。



活動体制	
実施主体	男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区
後援・連携	県水産振興センター・男鹿市・男鹿市土地改良区連絡協議会、秋田県土地改良事業団体連合会
実施期間	平成24年8月31日
参加者	地元住民、男鹿市、男鹿市土地改良区連絡協議会、関係者 60名
報道関連	特になし
活動実績	9回目（ブラックバス駆除の実施平成14年、15年、17年、18年、19年、20年、22年、24年） （16年は台風の通過により中止、クリーンアップのみ実施21年、23年）
連絡先	〒010-0683 男鹿市北浦北浦字北浦82-5 男鹿市北浦一ノ目潟土地改良区 TEL. 0185-33-4069
その他	県奨励賞（H23）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット一ノ目潟（夏井まゆ子）

○活動の目標及び達成率	目標 湖岸周辺のクリーンアップを土地改良区が主体となり、地元住民とともに行う。 達成率 60%				
○活動に対する評価	・クリーンアップについては充分活動内容を達成していると感じる。今年度は昨年度より地元住民の参加が多かった。湖岸に立ち入りができる貴重な機会を得たと感謝の声を聞くことができた。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	D	運動のPRに対しては今後、広報の方法について検討していきたい
①役職員・組合員の参加	A	役職員、組合員の積極的な協力がみられる	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	D	毎年地元小学校への参加要請をしているが、日程が調整できず、参加に至っていない	①他組織との連携構築	A	上水道を提供している男鹿市企業局と綿密に連絡し、計画を立てて実行している。男鹿市企業局からも、水質の保全に対する意見を求め、その実現に対して協力を求めている
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	A	水質保全の重要性を伝えることができていると感じる
①基本理念の設定	A	水質保全への取り組みとして、基本姿勢は確固としている	③施設管理・地域資源の保全強化	A	この運動が水質保全とため池の維持管理を強化する運動であると感じる
②地域の歴史等の伝承	A	この運動そのものがため池維持管理に努力した先人の遺志を継ぐものであると考えている	④運動の地域づくりへの関わり	A	例年継続して行うことで地域の協力が不可欠となっていることから、関わりが大きくなってきていると感じる
③運動の先駆性	E	他への手本となるような独自の運動ではない	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	E	農地・水・環境保全向上対策は当土地改良区の関係地域では行われていない
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	水質保全に努めることが地域農業の進捗に直接的に働きかけることではないが、農業経営をする上でより良い水質で稲作をする上では将来的に作物の品質向上に繋がればよいと思う
①運動の継続性	A	今年度で10回目の開催であり、今後も継続して行いたいと考えている	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	水質保全のために必要な運動を毎年見直し、その年の一ノ目潟の状況に応じて活動内容を広げている	・継続して運動を行ったことで、水質保全への取り組みが、地域の理解を得つつある。今後も継続して行うことで水質保全に努力をしていきたい。		
③運動の計画性	A	事前に取り組みについての打ち合わせを入念に行い、無駄のない活動計画を立てて取り組んでいる			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

11 飯田川地区 【水土里ネット飯田川】

学習田農業体験活動

飯田川小学校が実施する総合的な学習における学校農園活動の、5年生による「ふれあいマイ田んぼ」と銘打った学習田への農作業体験に参加しました。

〔田植え体験〕作業の説明を受け裸足で田んぼに入り、型枠で付けた目印に沿って苗を手植えました。田植え機の乗車体験も行いました。

〔稲刈り体験〕黄金色に稔った稲を、鎌を使って手刈りして束ねました。コンバインの乗車体験後、昔の農器具を使っての脱穀・もみ摺りなどを体験しました。

〔収穫感謝祭〕残念ながら参加出来ませんでした。農作業体験の発表や歌、感謝状を贈呈し、子供たちが収穫した米で作った「だまこ鍋」や「おにぎり」をごちそうになったそうです。

子供たちが農作業の難しさや収穫の喜びを感じながら、水やお米の大切さも知ってもらえれば、水土里ネットの重要性も理解していただけるかと思えます。



活動体制	
実施主体	飯田川小学校
後援・連携	J Aあきた湖東 老人クラブ 婦人会 水土里ネット飯田川
実施期間	5月14日、9月27日、11月21日
参加者	飯田川小学校（5年生、教職員、保護者）、老人クラブ他 70名
報道関連	湖畔時報社
活動実施年数	2年目
連絡先	〒018-1502 潟上市飯田川下虻川字八ツ口64 飯田川土地改良区 TEL. 018-877-3888
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット飯田川（川上 丈樹）

○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設や水土里ネットの役割と重要性のPR			
	達成率	50%			
○活動に対する評価	・参加が定着してきている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	記念品等によるPR
①役職員・組合員の参加	C	参加が少ない	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	D	指導の後継者がいない	①他組織との連携構築	B	発展まではしていない
2. 活動の意味性について			②地域住民等の理解	C	少しは理解されている
①基本理念の設定	B	取り組んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	C	少しは繋がっている
②地域の歴史等の伝承	B	手作業による	④運動の地域づくりへの関わり	C	一部のみ
③運動の先駆性	B	昔の農器具を使用	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	貢献している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	D	貢献まで至っていない
①運動の継続性	A	継続中	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	C	広がりは薄い			
③運動の計画性	B	計画的に実施			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

12 天王地区 【水土里ネット天王】

クリーンアップ

当地区は平成17年より8年間、塩口自治分館と潟上市天王土地改良区が協定締結を結び水路の管理用地のクリーンアップを行ってきました。

この活動を行う前は水路用地＝ゴミ捨て場のようなイメージがありましたが、自分たちでクリーンアップを行っていくにあたり、粗大ゴミ、農業ゴミ（肥料袋、モミガラ）などが減ってきました。

また、参加してくれる方々の大半が御婦人でクリーンアップに参加してくれた後はその話を家庭で話題とすることで、不法投棄防止の啓蒙に少なからずもなっていると思われます。

また最近では、この承水路管理用地に隣接する市道はこの集落の散歩コースとなっており、クリーンアップに参加してくれている方々が不法投棄に関する監視人的な役割を果たしていて、散歩途中で軽微なゴミがあったら一箇所に集めるような活動も見受けられるようになりました。



活動体制	
実施主体	水土里ネット天王（潟上市天王土地改良区）
後援・連携	塩口自治分館
実施期間	平成24年4月22日
参加者	塩口集落民80人程度
報道関連	なし
活動実施年数	1年目（H24年～）
連絡先	〒010-0201 潟上市天王上江川47 潟上市天王土地改良区 TEL. 018-878-3111
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット天王（桜庭 秀見）					
○活動の目標及び達成率	目標	不法投棄を減らし、捨てる人の意識改革			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	・目的は、大幅に達成とは言い難いが、継続することにより徐々に減ってきていることが感じられる。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	C	集落の口ゴミが一番の効果となっている
①役職員・組合員の参加	C	この活動は、あくまでも受益の一地区での活動	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	C	この活動は、継続していく事を目標としているため大きくせず小さくせずこのまま行っていく	①他組織との連携構築	B	自治会と連携して活動
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	A	ゴミはあればあるのが当たり前になるし、常になければそれが当たり前と感じ出している
①基本理念の設定	A	承水路管理用地の美化	③施設管理・地域資源の保全強化	A	施設の景観形成という観点からすれば大いに関わっている
②地域の歴史等の伝承	C	歴史的要素はなし	④運動の地域づくりへの関わり	B	少なからず、関わりは大きくなっている
③運動の先駆性	C	活動は地味だが継続を目標	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	農地・水向上対策は今年度が始めてなので今後に期待したい
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	不法投棄が減れば金額はわずかだが賦課金の軽減に関わってくる
①運動の継続性	A	継続が目標の一環	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	C	あくまでも地域で行っているため広がりなどは目標としていない			
③運動の計画性	A	不法投棄を減らす、継続する			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農業水利施設見学会

国営造成施設管理体制整備促進事業の一環として弘戸小学校5年生を対象に施設見学会を実施した。

バス移動の途中で農道に降りてもらい、当土地改良区が干拓によって造成された田を管理していること、周辺から流れてくる生活排水や雨水の終末処理をしているため排水機場のポンプで八郎潟調整池に排水していることなどを説明した。次に、揚水機場、排水機場を見学し実際に調整池に排水する様子を見せた。子ども達は建物があことは知っていても、どういう働きをしているのか知らなかったため、改めて各施設の役割について理解したようだった。

その後、南部排水機場に移動し八郎潟干拓のことや排水機場の仕組みをビデオで見てから、集中制御方式の操作室や巨大なポンプを見学した。最後に排水の様子を見た子ども達は、管から勢いよく出る水を見て驚きと喜びの声を上げていた。

今後も農業水利施設の重要性と土地改良区の行っている維持管理について理解してもらうためにこの活動を継続していきたいと思う。



活動体制	
実施主体	水土里ネット八郎潟西部干拓（八郎潟西部干拓地区土地改良区）
後援・連携	弘戸小学校、秋田地域振興局 八郎潟基幹施設管理事務所
実施期間	平成24年6月26日
参加者	弘戸小学校（生徒24名、教職員3名）八郎潟基幹施設管理事務所（2名）土地改良区役職員（8名）
報道関連	
活動実施年数	3年目（H22年～）
連絡先	〒010-0431 男鹿市弘戸字浜1-6 八郎潟西部干拓地区土地改良区 TEL.0185-46-2174
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット八郎潟西部干拓（船木 友見）

○活動の目標及び達成率	目標	農業水利施設とそれを維持管理している土地改良区について理解や関心を持ってもらう。			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	・小学校からは好評を得ており、今後もしできる限り継続していきたい。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	D	運動のPRはしていない
①役職員・組合員の参加	B	役職員一体で取り組んでいるが、組合員の参加も促したい	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	D	後継者を育てる工夫までにはっていない	①他組織との連携構築	B	小学校と連携している
2. 活動の意欲性について			②地域住民等の理解	C	子供達を通して少しずつ深まってきた
①基本理念の設定	B	推進協議会で計画を立て実施している	③施設管理・地域資源の保全強化	C	更に努力が必要である
②地域の歴史等の伝承	C	干拓の歴史について理解されつつある	④運動の地域づくりへの関わり	C	少しずつ発展させていきたい
③運動の先駆性	C	工夫が必要である	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	E	農地・水・環境保全向上対策は、行われていない
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	D	地域農業の振興にまで至っていない
①運動の継続性	B	学校側の協力を得ながら継続していきたい	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	C	大きな発展までには至っていない	・安全面に留意し、継続的な取り組みができるよう努力していきたい。		
③運動の計画性	B	推進協議会で計画を立て、小学校と連絡を取り行っている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

学習田農業体験活動

今年も井川小学校5年生による学習田体験農業活動「田植え・稲刈り」が行われ、当土地改良区が21世紀創造運動の一環として参加してから8年目に入った。

当土地改良区管理の坂本堤に隣する学習田において、井川町農業委員より苗の植え方について説明を受けた後、型枠で苗を植える目印を付け田植え作業に入った。

ほとんどの生徒が初めての田植え作業であり、素足で入る泥の感触に悲鳴をあげながらのスタートになったが、次第にその感触にも慣れ始め、覚束ない手つきながらも一生懸命作業を行っていた。

稲刈りでは、一部コンバインによる刈り取りも行われ、生徒がコンバインに同乗し稲刈りを体験した後、稲の刈り方の説明を受け作業に入った。

田植えと違い泥に足を取られることもなく、泥だらけになることもなく、一束一束丁寧に黄金色に実った稲を刈り取っていた。稲刈り作業が終わった後は、笠掛けの体験や刈り取った稲の束をコンバインまで運び脱穀までの作業を体験していた。

今回、毎年行われる収穫感謝祭には参加できなかったが、年間を通した体験農業活動の感想発表の後、保護者やお世話になった方々と一緒に「みそたんぼ」を作り収穫の喜びを味わったようだ。

今後も関係機関と連携を図りながら学習体験農業活動に参加し、水土里ネットの役割や水利施設の重要性について啓発して行きたいと思う。



活動体制	
実施主体	井川小学校
後援・連携	井川町教育委員会 井川町農業委員会 水土里ネット井川
実施期間	田植え5月24日 稲刈り10月4日 収穫感謝祭12月11日
参加者	井川小学校（5年生、教職員、保護者）井川町（農業委員会、教育委員会）等 延べ220名
報道関連	湖畔時報社 井川広報誌
活動実施年数	8年目（H17年～）
連絡先	〒018-1512 南秋田郡井川町北川尻字海老沢樋ノ口36-2 井川町土地改良区 TEL. 018-874-2105
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット井川（小林 秀昭）					
○活動の目標及び達成率		目標	農業水利施設の役割と重要性		
		達成率	70%		
○活動に対する評価		<ul style="list-style-type: none"> 行政、教育機関との連携は順調であり定着している。 農業水利施設の役割を理解してもらうよう継続していく。 			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	多面的機能を看板やパンフでPR
①役職員・組合員の参加	C	役職員の意識は向上したが、組合員までは浸透していない	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	小学生を対象に活動	①他組織との連携構築	B	行政・教育機関と連携されているが他の組織との連携までにはいっていない
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	C	一部の活動地域には深まっており、今後、全体的な啓蒙が必要
①基本理念の設定	A	取り組みが定着	③施設管理・地域資源の保全強化	C	施設見学等での現状把握が必要
②地域の歴史等の伝承	B	手作業により先人の苦勞を体験	④運動の地域づくりへの関わり	C	一部地域だけでなく広域的な関わりが必要
③運動の先駆性	C	今後、更なる発展が必要	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	委員として情報等の提供や交換を実施
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	D	地域農業の振興まで至っていない
①運動の継続性	A	継続してる	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	C	全体的な広がり薄い	<ul style="list-style-type: none"> 小学生を対象に活動しているが、今後は地域住民にも啓発普及活動を展開していければと思う。 		
③運動の計画性	B	計画的に実施されている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

「古代米の梵天で高校受験全員合格」祈願

本荘東中学校 3 年生による古代米の田植え稲刈り体験を実施

5 月25日東中 3 年生132名が古代米の苗を使い、田植えを行いました。

今年の生徒会のスローガンは「∞（無限大）の力!!～今こそつくれ 8 年目の伝説」です。

無限の力で今こそ東中を変えていこうとの思いで、今年は【POWER】という文字にしたそうです。

日々校舎から見下ろす圃場に POWER という文字が浮かび上がっていく様子を見ながら、学業・部活に頑張っていたと思います。

8 月31日古代米部分だけの稲刈りをし、その刈り取った稲を使って梵天を作り12月 7 日に寄贈しています。

梵天には高校受験合格・交通安全の願いが込められています。



活動体制	
実施主体	本荘子吉環境保全活動組織
後援・連携	水土里ネット子吉
実施期間	平成24年 5 月～12 月
参加者	本荘東中学校 3 年生他（132名）
報道関連	特になし
活動実施年数	10 年目（H15 年～）
連絡先	〒015-0042 由利本荘市埋田字小館81-16 由利本荘市子吉土地改良区 TEL. 0184-22-0426
その他	県奨励賞（H17）、県知事賞（H21）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット子吉（渡辺 聡）

○活動の目標及び達成率	目標 東中 3 年生全員参加 達成率 100%		
○活動に対する評価	・本荘東中学校も開校 8 年目となり、開校以来続いてきた田植え・稲刈りは学校行事と定着し、生徒会が主体となってきて今後も継続していきたい。		
判定基準	自己判定（達成度）	判定基準	自己判定（達成度）
	判定 評価等		判定 評価等
1. 取組体制について		④運動の PR	C 年 1 回の広報で知らせる程度に終わっているため、積極性には欠ける
①役職員・組合員の参加	B 全組合員までは周知がはかれないため積極的な参加までは出来ない	4. 運動の成果	
②後継者育成の工夫	C 運動に参加している生徒が、将来後継者になるかは定かでない	①他組織との連携構築	B 環境保全組織、改良区とは連携が構築されているが、それ以上の発展はない
2. 活動の意義性について		②地域住民等の理解	C 水土里ネットの重要性については理解が薄いと思われる
①基本理念の設定	A 東中の生徒会中心に活動に参加してもらう農作業を通じ将来農業に関心を持ってもらいたい	③施設管理・地域資源の保全強化	B 農地の保全にはつながっていると思われる
②地域の歴史等の伝承	B 先人が苦勞して農作業をしていたとは伝わっていると思われる	④運動の地域づくりへの関わり	B 地域の関わりはあるが、大きくはない
③運動の先駆性	B 他の団体から問い合わせ等があれば、手本となることは可能と思われる	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B 環境保全組織は大きく貢献している
3. 運動の継続性・発展性		⑥地域農業振興への貢献	C 地域農業の振興までは貢献出来ていない
①運動の継続性	A 今後も継続的に活動できる	5. 今後の課題等について	
②運動の発展・拡大	C 授業の一貫として行っているこれ以上の発展は無理なのかと感じる	・事業の継続は今後も可能であるが、地域住民への関心を広げる努力が必要と思われる。	
③運動の計画性	B 毎年生徒会が中心となって計画を立てているので、位置づけは出来ている		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農村環境向上対策による学校教育と連携した農業体験学習

今年度も農地・水環境保全活動組織で農村環境向上対策事業として、学校教育と連携した活動が実施されました。5月23日の田植え作業は、にかほ市立金浦小学校5年生と地区活動組織会員で現在は見られない伝統的田植え作業と農業・食料・農業水利について学び、最後に生徒から体験感想を述べてもらい秋の収穫を期待して終了いたしました。

今年は、春先の低温・突風・夏の暑さも心配されましたが、作柄も順調に進み9月には実りの秋をむかえ稲刈作業の計画を立てましたが、刈り取り期に連日の悪天候に見舞われ実施することができなくなり、生徒さんも楽しみにしていたのですが、今年度は中止となりました。

その後、小学校で組織会員と農業学習交流会を開催したいということで、1月24日に組織会員に招待状が届き「農業体験学習ライスパーティー」に10名の会員が参加し、農業関係について学びながら楽しく有意義な交流会となりました。

最後に今年度の反省点としては、多少の悪天候でも短時間・稲刈作業を実施したかったと思いました。



活動体制	
実施主体	飛地区農地・水環境保全活動組織 代表 佐藤 正春
後援・連携	水土里ネットにかほ・にかほ市立金浦小学校・秋田しんせい農協金浦支店・にかほ市農林水産課
実施期間	平成24年5月23日～平成25年1月31日
参加者	田植え作業：生徒47名・組織会員14名 農業学習発表会：生徒47名 組織会員10名
報道関連	にかほ市企画広報係・秋田しんせい農協金浦支店広報係
活動実施年数	10年目（平成15年～）
連絡先	〒018-0311 にかほ市金浦字花潟93-1 にかほ市土地改良区 TEL. 0184-74-5496
その他	県奨励賞（H19）、県知事賞（H23）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットにかほ（須田 久）					
○活動の目標及び達成率		目標	農業体験学習を通じて農業・食料・農業施設等多面的機能の重要性		
		達成率	80%		
○活動に対する評価		・農業体験学習は6年目に入り充実してきている。			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	多様な運動はしていない
①役職員・組合員の参加	A	組織体制は確立している 非農家へも浸透している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	組織内で後継者に参加呼びかけ 必要である	①他組織との連携構築	B	連携はしていない
2. 活動の意味性について			②地域住民等の理解	B	理解を得ている
①基本理念の設定	A	基本的な意識を持って取り組んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	B	体験学習で充実させていきたい
②地域の歴史等の伝承	A	伝統的農法を実践している	④運動の地域づくりへの関わり	A	水土里ネットからは支援をいただいている
③運動の先駆性	B	他の手本になるよう実践している	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	組織で継続を確認している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	体験学習により地域農業への関心を示している
①運動の継続性	A	継続性を重要視している	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	参加者も増えている	1) 組織会員も高齢化しているため、今後は若い会員も参加できるように計画したい。		
③運動の計画性	A	年間計画を立てながら実践している	2) 小学生の農業全般について、いろいろ勉強しているようなので、組織としても農業に関する情報等を得ておく必要がある。（専門的な質問も出てきて回答できないものもある）		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

農業体験学習（米づくり体験）

本地区では「農業体験学習」の一連の活動として地元小学生を対象に農業用水の水質調査、二級河川西目川の魚類生息調査、カントリーエレベーターの見学、親水公園の清掃、そして、米づくり体験を毎年実施している。

米づくり体験は小学校5年生が主体となって播種、田植え、生育観察、稲刈り、自然乾燥の各工程を実体験を通して学習活動をしている。

田植え、稲刈り、自然乾燥は昔ながらの手作業で行ない小学生の他、幼稚園、一般関係者も一緒に活動をしている。又、一部機械移植をし、小学生を乗せ機械作業を実感させている。更に自然乾燥では、刈り取った稲を小学生、幼稚園児が運搬し、棒杭による自然乾燥をしている。

体験学習田は西目小学校の近くの県道沿線に位置し、学習田はパイプラインかんがいで、農道は舗装されており、作業環境も良く楽しみながら作業を進めている。又、作業時には子供の保護者も多く集まり、作業にも参加している。

自分達の作業で収穫した貴重な自然乾燥米は、学校での試食と給食用に活用している他、西目出身の「東京ふるさと会」で試食用として利用している。

東京の試食会用に使用している袋には作業中の子供の写真を貼り、体験学習により収穫したふる里の米であることを表示しており、好評で米の消費拡大の役割を果たしている。

又、この体験学習により農業に対する関心と環境に対する関心も深まってきているので今後も継続したい。



活動体制	
実施主体	西目環境保全活動の会
後援・連携	水土里ネット西目（西目土地改良）、J A秋田しんせい西目総合支店、由利本荘市役所西目総合支所 稲作研究会、A S T農場、西目小学校、西目幼稚園、年長児保護者
実施期間	平成24年4月16日（播種）、5月15日（田植え見学）、6月26日（稲の生育観察）、9月26日（稲刈り）
参加者	西目環境保全活動の会5名、水土里ネット西目2名、J A秋田しんせい2名 由利本荘市役所西目総合支所3名、稲作研究会3名、A S T農場2名 西目小学校職員4名、5年生56名、西目幼稚園職員5名、年長児57名、年長児保護者57名
報道関連	由利本荘市C A T Vセンター
活動実施年数	3年目（H22年～）
連絡先	〒018-0604 由利本荘市西目町沼田字西潟356-3 西目土地改良区 TEL. 0184-33-4666
その他	さなえ賞（H23）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット西目（三浦 昭夫）

○活動の目標及び達成率	目標 地域農業に対し関心を深める 達成率 100%				
○活動に対する評価	・屋外での活動であり天候に左右されるため小学校の授業時間の調整等、難しい面もあるが、「農業が基幹産業である」ということに対する関心と環境保全にも関心が深まってきた。又、継続して実施することにより地域農業の発展に寄与できると思っている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	市の広報を活用している
①役職員・組合員の参加	A	役職員、組合員以外にも非農家参加もある	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	この運動に理解が出てきている	①他組織との連携構築	A	連携が強くなっている
2. 活動の意匠性について			②地域住民等の理解	A	徐々に深まってきている
①基本理念の設定	A	農業への関心を深めることに主眼をおいて取り組んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	B	繋がりが出ている
②地域の歴史等の伝承	B	体験学習の部門毎において先人の思いを伝えている	④運動の地域づくりへの関わり	A	運動が地域から期待されている
③運動の先駆性	A	体験学習全体の取り組みとしてはあると思っている	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	大いに貢献している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	A	成果が徐々に浸透してきている
①運動の継続性	A	今後も継続して行く	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	徐々に広がりが出ている	・天候により日程が左右されることもあるが、この活動が体系的なカリキュラムにより学習の一課程となれば更に効果が出てくると思われる。又、後継者の育成にも繋がると思う。		
③運動の計画性	A	年度当初に計画について学校側と話し合いをしている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

水の大切さと地域環境を学ぼう～施設見学会～

今回で6回目となった西明寺小学校4年生との施設見学会は、10月17日の実施となった。今年も宮田頭首工と、西明寺高区浄水場、下水処理施設の西明寺クリーンセンターを見学した。子供たちは、宮田頭首工の説明に熱心に聞き入り、またメモをとっていた。最初に管理事務所の中から遠隔操作で水門のゲートを調節することを知り、管理橋に上りその高さや長さ（100㎡）、水深（2㎡）を知り、上屋機械室に入り巻上機を見た。また、取水口に溜ったゴミは、桧木内川の上流から流れてきたもので、引き上げた沢山のゴミの山に驚いた様であった。その後自家発電機をみて、停電になっても大雨の場合にはゲートが自動で上がることを知った。次に仙北市企業局の協力で浄水場を見学させてもらった。最初に建物の外にある取水井で地下水を汲み上げて、建物内で濾過機や塩素で浄化して、各家庭に供給されることを知った。最後に仙北市下水道課の協力で下水処理場を見学させてもらった。ここでは汚水を浄化するのにバクテリアが活躍していること、そのバクテリアは家庭から流される食用油などで死んでしまうこと等を知った。処理場で浄化された水は桧木内川に流れていく。どの施設でも、自分たちの生活には水はかけがえのないもので色々な人たちがその水を管理している。何気なくゴミを捨てたりして川を汚してはいけないことを知ってくれたと思う。また水土里ネットの役割もよく理解してくれた様である。子供たちはそれぞれ感想文に、「この見学会で「水の大切さがわかった」「水は生活の中で大切だ」「水を大切にしたい」などと書いていた。

今年もまた子供達の感想文を「水土里の郷・西木「きらきら発見」と題し文集にして配り、各家庭で読んで貰う様にした。仙北市広報でも大きく取り上げて連載してくれたので、この見学会が市内全域で知られるようになったと思う。



活動体制	
実施主体	水土里ネット西木（仙北市西木土地改良区）
後援・連携	西明寺小学校、仙北市役所
実施期間	平成24年10月17日
参加者	西明寺小学校4年生（21名）先生（2名）仙北市役所（5名）土地改良区（7名）
報道関連	広報SENBOKUせんぼく
活動実施年数	6年（H19年～）
連絡先	〒014-0515 仙北市西木町門屋漆原87 仙北市西木土地改良区 TEL.0187-47-2602
その他	さなえ賞（H21）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット西木（伊藤 長三）

○活動の目標及び達成率	目標	小学生を対象に水土里ネットの役割と「水と環境の大切さ」を考えてもらい、各家庭で話題にしてもらう			
	達成率	90%			
○活動に対する評価		・6回目となる施設見学会は、すっかり定着したように思う。真剣に説明を聞く子供達の感想文には、「水は大切だ」「水を大切にしたい」という言葉が多かった。			
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	広報SENBOKUに掲載される
①役職員・組合員の参加	C	役職員一体で取り組んでいる	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	D	後継者を育てる工夫までは行っていない	①他組織との連携構築	A	小学校との取り組みに市役所の協力を得ている広報掲載により周知されることとなった
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	子供達を通じて改良区の重要性を家庭に伝え、広報に大きく取り上げられて地域全般に知られるようになった
①基本理念の設定	A	施設見学会で水と環境の大切さを、改良区の役割が子供達に感じ、子供達から各家庭や地域に伝えてもらう	③施設管理・地域資源の保全強化	C	改良区の管理施設を仙北市の多くの人々に知ってもらい、日々の管理について理解してもらうことが出来る
②地域の歴史等の伝承	A	子供達は、昔頻りに起きた洪水を鎮めるため人柱になったとされる「お小夜伝説」を知り、宮田頭首工が造られた理由を知ることになった	④運動の地域づくりへの関わり	D	今後の課題である
③運動の先駆性	D	自分たちが出来る範囲の活動なので、特別ユニークさや先駆性はない	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	C	事務用品の調達に協力したり、図面を提供している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	D	地域農業の振興まで至っていない
①運動の継続性	A	今年で6年目で、小学校からは来年度の希望日時も提示されている	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	改良区の施設見学会に浄水場、下水処理場など市の施設も組み入れている			
③運動の計画性	B	子供達を通じて改良区の重要性を、家庭や地域でも認識してもらっている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

地域の用水を支える「緑のダム」

① 7月7日(土) わくわく探訪(土地改良施設巡り)

農業水利施設の役割と用水のはたらきを理解してもらい、農業農村に接する機会の少ない児童とその保護者に理解を深めてもらおうと、あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議が主催しています。

今回は、秋田市、大仙市の小学校4年生～6年生とその保護者30名が関田円型分水工を見学しました。円型分水工の役割と小水力発電設備について説明しました。子供たちは水から発電された電気に興味津々の様子でした。

② 7月8日(日) '12七滝「水の森」植樹(水環境学習会)

この植樹は美郷町が主催し、七滝水源涵養保安林にて毎年行っています。当初、町内児童4年生を対象とし、6月20日を予定していましたが、台風の影響で延期となりました。その後参加者を募った所、美郷町民140名が集まりました。植樹前、森林学習会を行いました。森林の働きと水の関わりを説明し、参加者に植樹の重要性を再認識してもらおう大変良い機会になりました。

③ 7月31日(火) 水環境学習会(土地改良施設巡り)

農地水保全会、町内小学児童40名が参加し、土地改良施設見学会を行いました。水利施設と土地改良区の役割を知ってもらおうと毎年行っています。自作パンフレットを作り、水はどのように作られ、流れ出てくるのかを説明しました。見学中、一生懸命メモを取っていました。

また、炎天下の中の学習会だった為、暑さに耐えかね関田円型分水工の中に入る子供もいました。水に触れることで改めて水の大切さを感じてもらおう機会になりました。



活動体制	
実施主体	水土里ネット七滝(秋田県七滝土地改良区)
後援・連携	美郷町、美郷町教育委員会、秋田県仙北地域振興局
実施期間	平成24年7月7日～31日
参加者	H24. 7. 7 (土) 秋田市・大仙市小学校高学年児童、保護者30名 H24. 7. 8 (日) 美郷町民140名 H24. 7. 31 (火) 善元寺地域保全会20名、千畑南小学校・千屋小学校・仙南東小学校20名 延べ 210名
報道関連	秋田県HP、水土里ネット秋田HP、美郷町HP、水土里ネット七滝HP
活動実施年数	5年目(H20年～)
連絡先	〒019-1404 仙北郡美郷町六郷字米町29 秋田県七滝土地改良区 TEL. 0187-84-2137
その他	さなえ賞(H22)

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット七滝(藤岡 義博)

○活動の目標及び達成率	目標 森林と水の大切さと地域農業の関わりについて学ぶ				
	達成率 90%				
○活動に対する評価	・子供からお年寄りまで参加してもらったことは大きな成果である。				
判定基準	自己判定(達成度)		判定基準	自己判定(達成度)	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	A	改良区HPや広報等でPRを行った
①役職員・組合員の参加	A	役職員が一体となり運動に取り組んだ	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	小学児童を対象とし運動を行っている	①他組織との連携構築	A	県・町の協力で運動が周知された
2. 活動の意欲性について			②地域住民等の理解	A	農業用施設の理解が増した
①基本理念の設定	B	運動が確立してきている	③施設管理・地域資源の保全強化	B	水利施設の管理方法や土地改良区の役割を理解してもらおう大変良い機会になった
②地域の歴史等の伝承	B	学校の授業にも取り入れられてきた	④運動の地域づくりへの関わり	A	地域との関わりを大いに深める事が出来た
③運動の先駆性	A	子供を通じて地元住民の参加を増やす事が出来た	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	B	啓発用品の調達や写真撮影等を協力している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	人材育成だけではなく農業生産等にも貢献したい
①運動の継続性	A	運動が定着している	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	世代を越えた人の広がりになってきている			
③運動の計画性	A	事前準備・打合せをしっかりと行った			

(自己判定) A: 大いに達成している B: 達成している C: 少しは達成している D: 達成していない E: その他

みんな元気に川下りにチャレンジ

今年度は横手市立南小学校の6年生児童とPTAの協力のもと、横手川（一級河川）でラフティング（ペットボトルを組合せた手作り筏）に取り組みました。ラフティングでは筏の上にメッセージボードを掲げ、普段なかなか川で遊ぶことのない児童が、父兄の協力のもと存分川下りにチャレンジしていました。ラフティングの合間には、横手川の源流の話やこの水が普段飲み水として利用されていること、農業用水や地域用水として欠かせない大切な資源であることなど、色々な話を交えて児童に説明をしました。

その他に、横手川漁協共同組合のご協力により投網の実演をしていただき、目の前で魚を取り横手川の生育状況を紹介しました。児童にとっては初めての体験ばかりで、運動を通して川をきれいにすることや、水の大切さ、生物の尊さなどたくさんのお話を学習出来たと思います。



活動体制	
実施主体	水土里ネット南旭川（秋田県南旭川水系土地改良区）
後援・連携	水土里ネット秋田、横手地域資源保全隊
実施期間	平成24年9月7日
参加者	横手市立南小学校児童 122名 同PTA 96名、教職員 6名、漁協共同組合 2名、横手地域資源保全隊 8名、土地改良区職員 3名 計237名
報道関連	
活動実施年数	6年目（H19年～）
連絡先	〒013-0060 横手市条里一丁目1-70 秋田県南旭川水系土地改良区 TEL.0182-33-7200
その他	さなえ賞（H19）、県奨励賞（H19）、県知事賞（H22）、東北大賞奨励賞（H23）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット南旭川（照井 元）

○活動の目標及び達成率	目標	水に触れ、水資源を理解する。			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・学校教育の一環として、児童同士が協力し筏を作成し水の体験（学習）をすることが出来たと思う。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	ブースを設け運動のPRに努めた
①役職員・組合員の参加	B	地域の皆さんにもっと参加していただく	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	横手地区資源保全隊合同で取り組んでいる	①他組織との連携構築	A	今回は新たに漁協組合との連携が繋がった
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	A	回数を重ねる毎に小学校や地域住民に理解をいただいている
①基本理念の設定	A	将来を担う児童の育成に努めた	③施設管理・地域資源の保全強化	B	地域の水資源の保全、理解に繋がった
②地域の歴史等の伝承	B	学校の恒例行事に取入れた	④運動の地域づくりへの関わり	A	年々関わりは大きくなっている
③運動の先駆性	A	色々な体験を通じ児童、父兄の反応が良かった	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	資源保全隊と連携を取り事業に取り組んでいる
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	川の水が農業用水に欠かせないものだ、理解してもらった
①運動の継続性	B	継続的な運動に取り組んでいる	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	横手市内の小学校に回り、運動を年々広く展開している	・見たり、触れたり、身近で感じたり、児童の思い出に残る運動を展開していきたい。		
③運動の計画性	A	小学校、資源保全隊と年度計画の立案している			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

皆瀬川に鮎の稚魚を放流—in 皆瀬頭首工—

平成24年6月12日、横手市立増田小学校1年生児童（48人）による鮎の稚魚の放流が、皆瀬頭首工で行われました。

この活動は、学校近くを流れる皆瀬川に稚魚を放流することを通して、自然環境の大切さや生き物の尊さ、力強さを肌で感じ取ってもらう事を目的としており、地元漁業協同組合や関係機関の協力を得て、今年で3年目を迎えます。

当日は天候にも恵まれ、児童一人一人に稚魚の入ったバケツが手渡されると、バケツの中で元気良く飛び跳ねる稚魚に驚きながら、体長約10cmに育った鮎（約7千匹）を代わる代わる交替で放流しました。

放流後、小さな体で川を泳ぐ鮎の姿に子供たちは「元気に育ってね!」「美味しくなってね!」など思い思いの声援を送っていました。

その後、施設見学会も行われ、管理棟内に展示している頭首工周辺で捕獲された昆虫の標本を興味津々に観察していました。

入学してから初めての野外学習となったこの活動は、子供たちにとって良い思い出になったと思います。



活動体制	
実施主体	水土里ネット雄物川筋（秋田県雄物川筋土地改良区）
後援・連携	東北農政局平鹿平野農業水利事業所、秋田県平鹿地域振興局農林部農村整備課 横手市産業経済部農林整備課、皆瀬川筋漁業協同組合
実施期間	平成24年6月12日
参加者	横手市立増田小学校1年生（児童48人）等 計80人
報道関連	AKT秋田テレビ、ABS秋田放送、朝日新聞社
活動実施年数	11年目（H14年～）
連絡先	〒013-0102 横手市平鹿町醒醐字浅舞山13-74 秋田県雄物川筋土地改良区 TEL.0182-32-2244
その他	さなえ賞（H19）、県知事賞（H22）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット雄物川筋（吉田 一則）					
○活動の目標及び達成率	目標	放流を通し、自然の大切さや生き物の尊さ、力強さを体感する。			
	達成率	90%			
○活動に対する評価	・まだあどけなさが残る子供たちにとって、貴重な体験を通し学べる活動となっている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	関係市の協力により、報道関係各社等に対し活動のPRを行っている
①役職員・組合員の参加	C	今後、役員等に対し参加を呼びかけ活動の輪を広げて行きたい	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	B	若手職員を主体とした立案・計画・実践活動を行っている	①他組織との連携構築	B	学校や関係機関、地元漁協との連携が構築されている
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	D	限られた参加者での活動となっている事から、規模拡大等出来る範囲で活動内容を見直す必要がある
①基本理念の設定	B	放流活動を通し、自然環境の大切さや生き物の尊さ、力強さを感じてもらおう	③施設管理・地域資源の保全強化	C	放流を通し、環境保全に対する意識の向上に繋がっていると感じる
②地域の歴史等の伝承	E		④運動の地域づくりへの関わり	C	テレビや新聞等の報道により、広く活動について理解を得ていると思う
③運動の先駆性	B	一般的に川原などで行われる放流をあえて施設内で行うことにより、施設の持つ多面的機能の啓発に繋がっている	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	E	
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	E	
①運動の継続性	B	小学校の恒例行事として位置付けられている	5. 今後の課題等について ・頭首工等の農業水利施設を学習の場として活用して頂くために、教育関係機関へのPR活動を更に強化する必要がある。		
②運動の発展・拡大	C	限られた参加範囲での活動となっている事から、今後更なる拡がりを模索したい			
③運動の計画性	E				

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

山田小学校 「まちたんけん学習」

地元の湯沢市立山田小学校の協力により、生活科の校外学習の一環として「まちたんけん学習」を2回に分けて実施しました。

内容は、地域を流れる田んぼの水はどこから来ているのか。なぜ、田んぼのあちらこちらに水路があるのかといった、小学校2年生が自発的に疑問に感じた項目について、パワーポイントによるスライド上映を実施しました。農業水利施設の歴史や施設の果たしている役割、農業の役割、地域を潤している水がどこから流れてきて、誰が管理しているのかということなどを2回の学習会で学んでもらうことができました。それぞれ子ども達から活発な質問があり、水土里ネットについての理解や施設の重要性を学んでもらい、後日、生徒からの感想文が届けられ大変有意義な運動となりました。

また、以前は出前授業として水土里ネットから出向くことが多かったのですが、今回は子ども達が自ら「まちたんけん学習」ということで水土里ネットの事務所に来てくれて、こちらで用意された内容を聞くのではなく、自分たちが日常生活において感じた素朴な疑問を質問する学習の仕方が効果的であると感じました。今後とも創意工夫を努めながら、水土里ネットの役割の大切さを地域住民に伝えていきたいと考えています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット山田五ヶ村（雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区）
後援・連携	湯沢市立山田小学校
実施期間	10月9日(火)、15日(月)
参加者	水土里ネット職員2名、小学生7名、先生2名
報道関連	秋田県雄勝地域振興局農林部農村整備課
活動実施年数	11年目（H14年～）
連絡先	〒012-0055 湯沢市山田字中屋敷139番地 雄勝郡山田五ヶ村堰土地改良区 TEL. 0183-73-0438
その他	東北推薦（H15）、秋田県奨励賞（H18）、農林水産大臣表彰（H18） 東北地方大賞（H19）、全国大賞（H19）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット山田五ヶ村（倉田 一治）

○活動の目標及び達成率	目標 小学校との連携	達成率 98%			
○活動に対する評価	・次世代を担う子ども達に、水路の大切さを感じてもらえるような内容を心がけている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	県のホームページ、水土里ネット広報誌等を活用
①役職員・組合員の参加	A	積極的に参加している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	小学校の子ども達に対する出前講座、体験学習等を推進	①他組織との連携構築	A	農地・水・環境保全向上対策活動組織との連携
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	A	運動の継続により土地改良施設の多面的機能について理解が深まっている
①基本理念の設定	A	地域住民参加型の維持管理体制の確立	③施設管理・地域資源の保全強化	A	農地・水・環境保全向上対策活動組織との連携により、施設の管理・保全が強化されている
②地域の歴史等の伝承	A	地域の偉人について出前講座を実施	④運動の地域づくりへの関わり	A	農地・水・環境保全向上対策活動組織との連携により、地域づくりの関わりが大きくなっている
③運動の先駆性	A	25年前から維持管理コンテストを実施	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	全ての活動組織からの事務受託を受け、積極的に活動を推進している
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	A	水土里ネットとして水田農業推進協議会、農業者大会、担い手育成推進協議会、耕作放棄地対策協議会の参画団体として意見発言を行っている
①運動の継続性	A	25年前から毎年維持管理コンテストを実施している	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	A	農地・水・環境保全向上対策活動組織との連携	・水土里ネット管内だけでなく、広く地域住民に対する意識啓発のための情報発信の強化（現時点では、少し情報発信力が不足している）。		
③運動の計画性	A	地域住民参加型の維持管理体制を確立する目標を掲げている			

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他

21 創造運動課外学習 (地域とのふれあい)

管内の4小学校5年生が総合学習の一環として米作り(田植え、稲刈り、自然乾燥、)を体験をしました。5月25日～6月4日の間にそれぞれの小学校で地域のおばあさんやおじいさん、資源保全会、水土里ネット稲川の役員が協力し、泥んこになりながら田植え作業を体験しました。

特に川連小学校においては、今年度から稲川養護学校の子供達にも田植えと稲刈りに参加して頂き、交流を深める事ができて本当に良かったと思います。

収穫したお米については、それぞれの学校でおにぎり等にして試食会を行いました。また駒形小学校では、今年度も農村と稲作文化を伝えるため、地域の有志の皆さん、資源保全会、水土里ネットが協力し5年生が収穫した稲わらを使っての「縄ない」を4年生から6年生の児童が1月25日に体験しました。特に上手に仕上がった児童の作品は同じメンバーの指導の下、2月14日に行われる「雪中田植え体験」でしめ縄として活用する予定です。

9月10日には、三梨小学校4年生の校外学習「ふるさとの水」で、10月2日には川連小学校4年生の社会科「きょう土を開く」の学習のまとめとして与惣右衛門堰を実際に見学し、堰の取入口や途中の流れを見学することで先人の業績(苦労や思い)やふるさとを大切にしようとする心を育てる事を目的に水土里ネットが講師役を努め現地での学習をしました。実際に一番難儀した蛇の崎の大岩の前では「たがねとかなづち」を使っての体験もしてもらいました。51年間もよく掘り続けたものだと感じていました。10月6日には三梨小学校の学習発表会に招待され、4年生による「与惣右衛門堰物語」の劇を鑑賞させて頂きましたが、大変上手で感動しました。また、今年で9回目になる「ゴミ捨て標語コンクール」には管内の5小学校、2中学校の児童、生徒から小学生の部352点、中学生の部312点合計664点の応募がありました。優秀な作品を看板にして掲示し、ゴミ捨て防止への啓発普及に努めています。



活動体制	
実施主体	水土里ネット稲川 (稲川土地改良区)
後援・連携	管内小、中学校、県雄勝地域振興局農村整備課、雄勝農業共済、JAこまち、皆瀬川筋漁業協同組合
実施期間	H24. 5. 25～H25. 2. 15
参加者	管内5小学校児童、管内2中学校生徒、父兄など延べ 540名
報道関連	秋田魁新聞、NHK、雄勝農業共済、水土里ネット稲川HP
活動実施年数	11年目(H14年～)
連絡先	〒012-0105 湯沢市川連町字上平城120番地 稲川土地改良区 TEL. 0183-42-2116
その他	21創造運動秋田県知事賞(H18) 県土連会長奨励賞(H18) 東北地方奨励賞(H21) 東北地方大賞・21創造運動大賞(H22)

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネット稲川 (加藤 満)

○活動の目標及び達成率	目標 「農業体験を通じて子供たちの豊かな心を育む」ため、学校と連携し各種学習会を実施				
	達成率 85%				
○活動に対する評価	・資源保全会等の関係者が参加することにより、学校と地域の関係も深まり、テレビ・新聞等マスコミでも多く取り上げられ地域への浸透が図られた。				
判定基準	自己判定 (達成度)		判定基準	自己判定 (達成度)	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	A	マスコミ(3社)外3機関へ発信、本区HPでPRが行われた
①役員・組合員の参加	A	役員が田んぼの提供、稲作指導に積極的に参加している	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	A	資源保全会等の役員、構成員に理解を呼びかけている	①他組織との連携構築	A	地域・学校・各種団体との連携が定着してきた
2. 活動の意欲性について			②地域住民等の理解	A	子供たちを通じて父兄や地域住民の関心が高まっている
①基本理念の設定	B	各種団体や学校との協調を図りながら進められている	③施設管理・地域資源の保全強化	B	資源保全会との多様な関わりが、強化に繋がってきている
②地域の歴史等の伝承	A	子供たちの授業に先人の功績について取り入れられている	④運動の地域づくりへの関わり	A	学校だより等の発信が、世代を越えた関わりに繋がっている
③運動の先駆性	B	「ゴミ捨て防止標語コンクール」などでエコ発信している	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	資源保全会と運動を連携させた効果は大きくなっている
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	B	運動と各組織が共同できる部分があり、間接的であるが貢献している
①運動の継続性	A	学校からの要請もあり、これからも継続していきたい	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	地域への広がり浸透は見られ、定着している	・地域資源保全会を中心にして水土里ネットの連携を進め地域づくりに務めたい。		
③運動の計画性	B	年間事業として行われてきている			

(自己判定) A: 大いに達成している B: 達成している C: 少しは達成している D: 達成していない E: その他

水土里の体験～稲作体験を通しての地域交流～

今年度より羽後町立田代小学校の全校生徒を対象に、休耕田を活用し稲作体験を通して農業の大切さと水土里ネットの役割を学ぶことを目的に農作業の体験学習を行った。

内容として、8アール程の水田に田植えと稲刈りの2作業を行う体験学習と、独自に稲の成長観察を行うなど意欲的に活動を行っている。また、5年生を対象に『水土里ネットの役割について』と題して出前授業を行った。収穫したお米については、食育の授業や福祉活動等に活用されており、地域住民の方々より好評を得ている。

羽後町立西馬音内小学校の場合、JAこまち農協青年部が主体となり近代的な農法の実演と食育を行うなど、5年生の子供達に好評を得ている。また、収穫感謝祭に保護者の方々も参加し、各農業団体の活動を理解してもらえる会となった。

「食料・環境・ふるさとを考える女性の会」と題して、管内の女性の方を対象に農業水利施設見学と農地・水・環境向上対策の活動報告及び県職員の方を講師に「特異な天候について」と題し講演をして頂き、その後、水土里ネットを女性の視点から見て意見交換会を行った。この意見交換で、農業用水及び農業水利施設の重要性を再認識したとの感想があり、水土里ネットの役割を理解してもらえた会となった。



活動体制	
実施主体	水土里ネットうご (羽後町土地改良区)
後援・連携	町内2小学校、秋田県雄勝地域振興局農林部、羽後町農林課、JAこまち、雄勝共済
実施期間	5月28日～11月27日
参加者	町内2小学校、組合員(非農家も含む)管内の女性など259名
報道関連	秋田県のHP(美の国秋田)、JAこまち広報、雄勝共済広報等
活動実施年数	11年(H14年～)
連絡先	〒012-1131 雄勝郡羽後町西馬音内字中野177番地 羽後町土地改良区 TEL.0183-62-0741
その他	

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットうご (藤原 周悦)					
○活動の目標及び達成率	目標	出前授業6小学校・ふるさとを考える女性の会の実施			
	達成率	40%			
○活動に対する評価	農作業の体験活動を通して、お米及び食について関心度が高くなった。				
判定基準	自己判定(達成度)		判定基準	自己判定(達成度)	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			④運動のPR	B	広報及び各農業団体と連携し、運動のPRを行っている
①役職員・組合員の参加	B	積極的に取り組む事で、活動を理解してもらっている	4. 運動の成果		
②後継者育成の工夫	C	“田んぼの学校”で農作業体験等を行っている程度である	①他組織との連携構築	B	各農業団体等とも連携が取れており、一定の成果を得ている
2. 活動の意義性について			②地域住民等の理解	B	農地・水・環境保全の活動を通して、特に理解を得ている
①基本理念の設定	B	事業計画に明確に織り込んでいる	③施設管理・地域資源の保全強化	B	上記と同様である
②地域の歴史等の伝承	C	先人達の想いを伝えているが、子供達の反応が鈍い	④運動の地域づくりへの関わり	C	農地・水・環境保全の活動を通して、従来よりも関わりが多くなっている
③運動の先駆性	B	女性の会での意見を、当水土里ネットの運営に反映している	⑤農地・水・環境保全向上対策への貢献	A	農地・水・環境保全の活動を通して、地域より評価を得ている
3. 運動の継続性・発展性			⑥地域農業振興への貢献	C	運動の内容を通して、地域の農業振興に貢献度は薄い
①運動の継続性	B	事業計画に織り込んでおり、継続的に運動を展開している	5. 今後の課題等について		
②運動の発展・拡大	B	先人達の想いを伝えているが、子供達の反応が鈍い	・創造運動の活動を通して、地域の方々に当水土里ネット		
③運動の計画性	B	学校関係とも連携をとっており、計画を持って実施している	に対する認知度が徐々に向上しました。今後の取り組み		
			として、身の丈にあった活動内容とし地域主導型で継続的に運動を展開していきたい。		

(自己判定) A: 大いに達成している B: 達成している C: 少しは達成している D: 達成していない E: その他

《 21 創造運動 》

参 考 資 料

1.平成24年度21創造運動表彰受賞一覧

(1) 秋田県21世紀土地改良区創造運動表彰

管 内	水 土 里 ネット 名	受 賞 名	適 用	備 考
山 本	水土里ネット能代地区	県知事賞		
平 鹿	水土里ネット雄物川筋	奨 励 賞		
鹿 角	水土里ネット鹿角支部	特 別 賞		

(2) 21世紀土地改良区創造運動東北地方大賞

都道府県	水 土 里 ネット 名	受 賞 名	中央選考委員会 推 薦 地 区	備 考
青 森 県	水土里ネット五所川原市南部	奨 励 賞		
岩 手 県	水土里ネット須川	奨 励 賞		
宮 城 県	水土里ネット大倉川	大 賞	○	
秋 田 県	水土里ネット仁井田堰	奨 励 賞		
山 形 県	水土里ネット白鷹町	奨 励 賞		
福 島 県	水土里ネット矢吹原	大 賞	○	

(3) 21世紀土地改良区創造運動大賞

都道府県	受 賞 地 区	副 題	備 考
北 海 道	水土里ネット深川	先進農業プランナー	
宮 城 県	水土里ネット大倉川	地域連携サポーター	
福 島 県	水土里ネット矢吹原	水の守人チャレンジャー	
新 潟 県	水土里ネット川西	子どもの未来プロデューサー	
滋 賀 県	水土里ネットびわこ揚水	水環境イノベーター	
大 阪 府	水土里ネット木積	農空間フロンティア	
宮 崎 県	水土里ネット都城市高木原	夢の農場クリエイター	
鹿 児 島 県	水土里ネットひしかり	地域協働ネットワーク	

(4) 21世紀土地改良区創造運動「さなえ賞」

都道府県	受 賞 地 区	適 用	備 考
秋 田 県	水土里ネット八郎潟西部干拓		

2.平成24年度「水土里レポーター」活動報告

特集

地域からの
情報発信

秋田県指定無形民俗文化財 『願人踊』



(JR八郎潟駅前)

水土里レポーター 千田 寿

(戸村土地改良区事務局長)

八郎潟町には、秋田では数少ない門付け芸能の「一日市願人踊」が伝えられています。

門付け芸能の多くは正月に各家庭を祝福に訪れる芸能で、全国的には、大黒舞、万歳、獅子舞など数多くありましたが、現在ではほとんど消え去っています。

「一日市願人踊」は、八郎潟町浦大町地区にある副川神社が、正徳四年(1714年)に高岳山に再興されて間もない頃、神社の祭典の行事に加えられ、豊作を祈念して踊ったのが始まりとされています。

「願人踊」は伊勢、熊野信仰普及のため、芸人となり各地を巡り歩いた「願人坊主」が流布し集落で踊られていた踊りが原型となっており、大阪の「住吉踊」のながれをくんでいるともいわれています。その後、江戸中期には地元の豪農で俳人でもあった村井素太が伊勢神宮参拝した際に、伊勢音頭の手振りを従来の願人踊りに取り入れた。さらに、幕末から明治時代のはじめには、歌舞伎芝居「仮名手本忠臣蔵五段目」の寸劇も取り組まれ、ほぼ現在の形として伝承されています。



踊りの特徴は、裾をはしょった女物の長襦袢の羽織、前垂れを腰から下げた踊り手が、右手右足、左手左足が同一方向に動く特異な踊り方の「一直踊り」とも呼ばれる踊り方で、早いリズムに合わせて力強く奔放な踊を披露します。演技の途中で歌舞伎仮名手本忠臣蔵五段目の山伏「定九郎」とじっちゃ「与一兵衛」が登場し、荒事をユーモラスにアレンジしたコミカルな寸劇で観衆の笑いを誘っています。

この芸能は、毎年5月5日に行われ、一日市諏訪神社に踊りを奉納したあと、一日市地区の各家庭への門付け巡回が午後4時頃まで行われます。また、「子ども願人踊り」も元気に町内を巡回し、山車を小学生たちが引き、山車の上では華やかな着物を着た小学生たちが「秋田音頭」の踊りを披露しながら町内を巡回します。

「子供願人」や「秋田音頭」に参加したり目にする事で、郷土芸能の継承意識が子供たちの中で脈々と育っています。しかし、進学や就職で町外に出る若者が多くなり、10代後半から20代の若者の参加が少なくなっています。ここでも高齢化や過疎化等が大きな問題となっており、若者の住みやすい町づくりや地域振興対策が不可欠であると思います。

巡回中はなかなかゆっくりと観覧できる機会は難しいと思いますが、八郎潟駅に設置されている「願人踊・盆踊り陶板レリーフ」前で午前10時頃に踊りや寸劇が披露されます。機会がありましたら是非一度足をお運びください。



特集

地域からの
情報発信

由利本荘市『大内地域の三大行事』 ここにあり！

水土里レポーター 加藤 隆和
(大内土地改良区)

秋田県内で最も大きな市である由利本荘市の旧大内町には古くから引き継がれてきた三つの大きな行事があります。三つの大きな行事とは「長坂稲荷神社の梵天祭」「折渡の地蔵祭」「岩谷麓のワタワタ」であり、これらの行事は信仰的・宗教的なものではありませんが地域住民の心の中の一つの誇りとして継承されてきました。



最初に「長坂稲荷神社の梵天祭」について紹介します。稲荷神社は五穀の神として「稲倉魂命」を祀っていて「イナリ」は「イネナリ」の縮まったもので、稲の成長を助けることを意味し、稲荷と書くのは稲の束を荷なうことからだとされています。この梵天祭りは約200年前から五穀豊穡・商売繁盛・家内安全などを祈願し、梵天奉納が行われます。長坂稲荷神社の梵天祭は先陣をみんなで争う為、「喧嘩稲荷」とも言われ奉納の際の押し合いは壮観です。尚、梵天祭は毎年3月の第2日曜日に開催されています。

次は「折渡の地蔵祭」です。折渡は約240年前に開基された地蔵尊がある場所で「いぼとり地蔵」としても大変有名です。元々は峠道を通る旅人の安全祈願のために安置されたのが起源という地蔵尊ですが、今から20年ほど前に地蔵尊の周辺に千体の地蔵を建立・安置されました。毎年7月24日の地蔵祭は参拝する人で大賑わいです。また1月24日にも初地蔵かんじき詣が行われています。



最後は、「岩谷麓のワタワタ」です。いつから始めたか定かではありませんが、毎年小正月の1月15日に行われおり、奇習と呼ばれているこの祭りは、岩谷麓集落でこの1年間に嫁・婿をもらった家で行われます。一説には早く集落になじんでもらうための呪術的洗礼とか、新婚夫婦を招き子宝を授ける儀式であるという説もあります。

これらの伝統的な行事も年々、地域の高齢化・過疎化が原因となり参加人数は減少し、若い世代への継承が大変難しい状況となってきました。しかし、それぞれの行事へ地域住民や近隣住民だけの参加ではなく、市外や県外の観光客も参加できる環境にすることができればもっと魅力のある行事として地域に根付き、現在と多少形は変わっても、若い世代へ継承することも可能となってきます。この記事を読んでくれた方が少しでも興味を持っていただいで、当由利本荘市大内地域へ足を運んでいただければ嬉しく思います。

特集

地域からの
情報発信

能代市『おなごりフェスティバル』 — 行く夏を惜しむ恒例イベント —

水土里レポーター 三浦 誠樹
(秋田県能代地区土地改良区)

秋田県北部に位置する能代市の恒例イベント「おなごりフェスティバルin能代2012」が、今年も「東北から元気」をテーマに、9月7日(金)・8日(土)の2日間に渡って開催されました。

今年は節目の25回目を数え、能代市畠町通りを会場に県内外の祭りが集まり、常連出演の「青森ねぶた」、「盛岡さんさ」、「浅草カーニバル」、「秋田竿燈まつり」「能代七夕」などの参加に加え、岩手県大船渡市から「盛町灯ろう七夕」が初出演し、東日本大震災からの復興を力強くアピールしていました。また、9月7日の前夜祭には、ミッキーマウスなどのディズニーキャラクターが出演してスペシャルパレードを行い、多くの見物客が押し寄せていました。主催者発表によれば、二日間で約50万人の見物客が訪れたそうです。



当日は、東日本震災被災3県の支援ブース、秋田B級グルメ屋台が設けられ、日中から多くの人々が詰めかけていました。夜のメインイベントの時間が近づくと会場は人垣でいっぱいになり、家族連れや友人グループの熱気と興奮に包まれていました。

午後6時、のろしを合図に会場北端から能代駅前方面に向かって、「盛岡さんさ」、「浅草カーニバル」、「青森ねぶた」などが次々とスタートします。一般から募集したハネト(踊り手)が後に続きます。

同じく反対側からは、マーチングバンド、能代一中、能代二中の生徒がはやしを響かせながら七夕の灯ろうを曳き始めます。躍動的な乱舞と勇壮華麗な夏祭りのパレードが通りを埋め、例年同様午後9時まで会場は興奮のるつぼと化していました。見物客の誰もが目の前を勇壮、華麗に練り歩く各地の祭りを満喫し、去りゆく夏をなごり惜しんでいるようでした。



この大規模なイベントを主催する実行委員会は、ほとんどが無償のボランティアスタッフや地元の有志で構成されているそうです。経済不況や高齢化などの問題から、実行委員会のメンバーに掛かる負担も大きくなっているものと思われますが、このイベントは、単に商業的な目的だけではなく、各地域の伝統と文化を育み、次代を担う子どもたちに引き継いでいくという重要な役割を担っていると思います。自分も一人の地域住民として、来年以降もこのイベントが盛大に行われるよう期待しています。(写真提供:能代市)

21世紀土地改良区創造運動

県内の活動事例

水土里レポーター：水土里ネット雄物川筋 吉田一則



① 皆瀬川に鮎の稚魚を放流 in 皆瀬頭首工

6月12日(日)、秋田県横手市立増田小学校1年生児童(48人)による鮎の稚魚の放流が、皆瀬頭首工で行われました。

この活動は、学校近くを流れる皆瀬川に、鮎の稚魚の放流を通して自然環境の大切さや、生物の尊さを感じてもらおう事を目的としており、地元漁業協同組合や関係機関の協力を得て、今年で3年目を迎えます。

児童一人ひとりに稚魚の入ったバケツが手渡されると、バケツの中で元気良く飛び跳ねる稚魚に驚きながら、体長約10cmに育った鮎(約7千匹)を代わるがわるの交替で放流しました。

放流後、児童たちは川に向かって「元気に育ってね!」「美味しくなってね!」など思い思いの声援を送っていました。

その後、皆瀬頭首工の施設見学会も行われ、管理棟内に展示してある頭首工周辺で捕獲された昆虫の標本を興味津々に観察していました。

入学してから初めての野外学習となったこの活動は、子供たちにとって良い思い出になったと思います。



② 皆瀬1号幹線用水路(緑化活動) ～商店街を花いっぱい～

秋田県横手市十文字町の商店街沿いを流れる、皆瀬1号幹線用水路の水路敷地を活用した花の植栽が、7月5日(木)に行われました。

この植栽活動は、商店街を縦断している危険でもあった用水路が、国営事業を期に開水路から暗渠水路に改修されたものの、少し寂しげな商店街を花の力で明るくしようと、「十文字歩道の美化を考える会」が主催となり実施しているもので、今年で4年目を迎えます。

当日は、小雨が降るあいにくの空模様でしたが、地域住民や関係機関から72人に参加していただき、幅2.4m・長さ223mにわたり、6種類、約3,000株が一株一株丁寧に植えられました。

この花は、11月の雪が降る直前まで咲きほこり、道行く人を楽しませてくれることでしょう。





水土里ネット井川



水土里ネット浜口



水土里ネットうご

水土里ネットとは？

水土里ネットは、全国に約5,000ある農家で組織する「土地改良区」の愛称です。水土里ネットは、田んぼや畑を一つにまとめたり、大きく広げて整えたり、用水路を始めとする農業水利施設の管理を行っています。

また、農業用水の大切さを知ってもらうため、地域の人たちと一緒に、農業水利施設の見学や田植え体験などを行う「21世紀土地改良区創造運動」に取り組んでいます。



地元の小学生による「水源の森見学会」と「雪中田植え行事」(水土里ネット稲川:湯沢市)



みどり
水土里ネット

農村環境を保全する

〔発行〕

水土里ネット秋田

(秋田県土地改良事業団体連合会)

〒010-0967 秋田市高陽幸町3-37
TEL.018-888-2750(代表)

<http://www.akita-midori.net/>